

IV. 研究活動の成果と成果の公刊

IV-1. 登録研究会の活動

ビジネス創造センターに登録している研究組織の平成 22 年度における活動状況は以下のとおりです（五十音順）。

ICT 研究会

1. 代表幹事名：奥田 和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
「北海道（地域）あるいは企業の情報化に関わる課題の解決を図りながら I C T（情報通信技術：Information-Communication Technology）による社会・経済的価値の創造を考える」ことを目的としています。本研究会の活動は、具体的には以下の課題を中心に議論を行い解決の可能性を検討することです。
 1. 北海道（地域）の情報インフラの整備と地域経済の活性化
 2. 企業とマーケット（顧客）、企業と企業、企業内における情報化
 3. 情報教育と人材育成

遠隔教育研究会

1. 代表幹事名：奥田 和重（院アントレプレナーシップ専攻・教授）
2. 目的・内容：
遠隔教育の経済性評価に関する実証研究を行う。自治体の教育委員会や小・中学校と連携して遠隔教育システムを構築し、その経済性を評価するとともに、教育心理学の視点からシステムの有効性を評価する。

小樽運河観光船プロジェクト研究会

1. 代表幹事名：海老名 誠（ビジネス創造センター長・教授）
2. 目的・内容：
小樽運河は小樽のもっとも重要な観光資源であると同時に、小樽市民にとっての宝とも言うべき特別な資産です。この運河を小樽の産官学で守り、同運河の更なる活性化を目指し、同運河に運河船(Canal Boat)を運航するプロジェクトを立ち上げる為、共同研究を行います。特色：小樽運河の利用・活性化を巡っては、過去数度に亘り企画が取り沙汰され、その度に頓挫して来ました。その理由は、企画主が本州資本であったり、商業主義利潤追求を目的としたからです。本プロジェクトでは、小樽資本による、小樽のための、小樽の総力戦（オール小樽）で研究する点に特色があります。

会計研究会

1. 代表幹事名：坂柳 明（商学科・教授）

2. 目的・内容：

「世界に開かれた会計」を目指し、国際会計基準の歴史的変遷について、知識を深めることを目的としています。

3. 平成22年度活動実績：

(1)：第1回から第2回は、Christopher Nobes and Robert Parker ed., Comparative International Accounting, Prentice Hall, 10th ed., 2008. を報告，検討しました。各回の報告者と報告内容は次の通りです。

5月 8日（土）	第1回（於：小樽商科大学札幌サテライト） 石坂信一郎（専修大学北海道短期大学）：第20章 籾本 智之（小樽商科大学）：第22章前半
6月19日（土）	第2回（於：小樽商科大学札幌サテライト） 籾本 智之（小樽商科大学）：第22章後半～第23章

(2)：第3回から第6回は、

Harry I. Wolk, James L. Dodd and John J. Rozycki, Accounting Theory : conceptual issues in a political and economic environment, Sage Publications, 7th ed., 2008. を報告，検討しました。各回の報告者と報告内容は次の通りです。

7月17日（土）	第3回（於：北星学園大学第2研究棟） 松本康一郎（北星学園大学）：第1章 今村 聡（北海学園大学）：第2章
10月30日（土）	第4回（於：小樽商科大学札幌サテライト） 原 晴生（札幌学院大学）：第3章 片山 郁雄（函館大学）：第4章
12月 4日（土）	第5回（於：札幌学院大学社会連携センター） 今村 聡（北海学園大学）：第5章 原 晴生（札幌学院大学）：第6章
12月11日（土）	第6回（於：小樽商科大学札幌サテライト） 石坂信一郎（専修大学北海道短期大学）：第7章 籾本 智之（小樽商科大学）：第8章

開発プロセス研究会

1. 代表幹事名：平沢 尚毅（社会情報学科・教授）

2. 目的・内容：

目的：システム（サービス，製品も含む）開発を『プロセス』の観点から探求することを目

的としています。『プロセス』概念を基盤としながら、技術背景となるアーキテクチャー、組織成熟度、協働プロセスを含めた拡張概念を構想します。

特色：一般的な技術的なプロセスのみではなく、利用者、利害関係者などの人間を主体にしたプロセス論を展開します。そのため、様々な人間科学を理論背景に求めていきます。

3. 平成 22 年度活動実績：

平成 22 年度は、様々なシステムライフサイクルプロセスモデルの特性に関して共同研究を実施しました。共同研究の内容は、企業の事情により公開できません。

CS(カスタマー・サティスファクション)研究会

1. 代表幹事名：伊藤 一（商学科・教授）

2. 目的・内容：

目的：CS活動に関する研究。

3. 平成 22 年度活動実績：

研究会の実施 15 回

日時： 木曜日（隔週） 18：00－20：00 場所： サテライト会議室

研究会を実施し、以下の学会報告を実現

伊藤 一，桜井 秀彦，他（2010）“品質向上のオペレーションと戦略についての関連性” オペレーション・マネジメント&ストラテジー学会研究大会・神戸大学

桜井 秀彦，伊藤 一他（2010）“専門サービス提供組織の知覚品質，顧客満足，行動意図への影響要因” 消費者行動研究コンファレンス・東京

桜井 秀彦，伊藤 一他（2010）“かかりつけ薬局を志向したサービス品質の評価構造に関する実証研究” 日本医療マネジメント学会学術総会・札幌コンベンションセンター

4. 平成 22 年度研究成果（刊行物，HP など）：

最終結果は以下の論文にて公表

桜井 秀彦，伊藤 一 他(2011) “サービス・オペレーションの評価構造における環境要因の重要性”，オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌，Vol. 2, No. 1, 58-68.（査読付き）

沈 潔如（2011）“「地域ブランド」の購買決定に関する一考察—台湾におけるバイヤーの「北海道ブランド」仕入れを対象に—” 地域活性研究 Vol. 2, No. 1, pp. 33-43.（査読付き）

経営研究会

1. 代表幹事名：高田 聡（商学科・教授）

2. 目的・内容：

経営学に関する理論及び実証研究を中心に研究報告会を開催。商学科経営学講座のスタッフが中心となる活動ですが、より広く報告・参加者を募り、知識の幅広い交流も目指しています。

3. 平成22年度活動実績：下記，4回の研究会を開催しました。

5月14日（金） 14:30-	Professor Lee, Byoung-Hoon : Job Mobility of Non-regular Workers in the Segmented Labor Markets: Cross-national Comparison of South Korea and Japan (於：研究棟 第2会議室)
7月30日（金） 14:30-	加藤 敬太：老舗企業のマネジメントー老舗企業における戦略行動の経時的分析ー (於：研究棟B会議室)
10月 8日（金） 14:30-	福重 八恵：産学協同によるモバイルコミュニケーションシステムの研究開発-大学における授業支援と保健・医療分野への適用（於：研究棟B会議室）
1月21日（金） 14:30-	加藤 敬太：地域企業家ネットワークにおける場の創造と中間主導型組織の役割：札幌ビズカフェの事例分析（於：研究棟B会議室）

経済研究会(土曜研究会)

1. 代表幹事名：劉 慶豊（経済学科・准教授）

2. 目的・内容：

土曜研究会（経済研究会）は、大学院生と若手研究者の育成および教育学術研究の振興を目的とします。本研究会では、学外の大学院生と研究者を招聘して本学でのセミナーや共同研究会での報告を依頼し、最新の研究テーマを巡って活発に議論することによって、本学の大学院生と研究者が最新の研究動向を知ることができ、共同研究の可能性が生まれ、報告者の研究の更なる発展も実現されます。

3. 平成22年度活動実績：敬称略。他の機関との共同開催含む。

4月16日（金）	趙 来勲（神戸大学）：Tainted Food, Low-Quality Products and Trade
5月28日（金）	小林 航（千葉商科大学）：共有財源問題と国直轄事業負担金
7月 2日（金）	赤井 伸郎（大阪大学）：・ Endogenous Choice on Tax Instruments in a Tax Competition Model: Unit Tax versus Ad Valorem Tax ・ A simple dynamic decentralized leadership model with local borrowing regulation and free mobility
7月 9日（金）	神事 直人（京都大学）：Trade Patterns and International Knowledge Flows: Theory and Evidence from Patent Citation
7月23日（金）	吉田 あつし（筑波大学）：How Do Japanese Health Insurance Societies Finance Their Contributions to the Health Service Systems for the Elderly?
8月 5日（木）	SWET@小樽商大：ミクロ

8月 6日 (金)	SWET@小樽商大：ミクロ
8月 7日 (土)	SWET@小樽商大札幌サテライト：応用ミクロ
8月 8日 (日)	SWET@小樽商大札幌サテライト：計量
9月15日 (水)	山田 宏 (広島大学) : Bandpass Filters Based on the Hodrick-Prescott Filter and the OECD System of Composite Leading Indicators
10月 1日 (金)	小西 秀樹 (早稲田大学) : Decentralization in Government: Career Concerns and Yardstick Competition
11月 5日 (金)	浅野 貴央 (岡山大学) : Entrepreneurial Choice and Knightian Uncertainty, (with Takanori Adachi)
11月26日 (金)	梅島 修 (ホワイト&ケース外国法事弁護士事務所パートナー) : 最近の対中貿易救済措置
1月21日 (金)	尾山 大輔 (東京大学) : Contagion and Uninvasibility in Social Networks with Bilingual Option
1月28日 (金)	大垣 昌夫 (慶応義塾大学) : Worldviews and Intergenerational Altruism
2月14日 (月)	中川 訓範 (釧路公立大学) : An effect of consumer's earlier decision to purchase a discount ticket
2月14日 (月)	文 世一 (京都大学) : Pricing and regulation of multiple airports in a metropolitan area
2月18日 (金)	中谷 朋昭 (北海道大学) : An Alternative Test for Causality in Variance in the Conditional Correlation GARCH Models
2月21日 (月)	生藤 昌子 (大阪大学) : Climate change, economic growth, and health
3月11日 (金)	宮城 島要 (一橋大学経済学研究科) : Education Inequality among Different Social Groups

4. 平成22年度研究成果 (刊行物, HPなど) :

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/econ/workshop/history.html#h22>

国際取引契約研究会

1. 代表幹事名 : 中村 秀雄 (院アントレプレナーシップ専攻・教授)

2. 目的・内容 :

これから国際取引を始めようとしている人や, 既に取引を行っている人を対象に

- ① 輸出入取引, 国際取引のノウハウ
- ② 国際的事業をどう構築すればよいか
- ③ 国際取引契約書 (特に英文契約書) 検討のコツ

を勉強することなどを目的に行っています。参加者が実際に業務で使っている生の資料の提供を受けて, どのように対応すればよいかを, 具体的にかつ実践的に研究するほか, 貿易, 国際契約の基礎理論も勉強しています。2009年8月1日から効力を発した「国際物品売買契約に関する国際連合条約」(通称「ウィーン売買条約」)の研究も行っています。2010年度後半からは, 輸出契約の逐条研究を行っています。

3. 平成22年度活動実績 :

9回の研究会を行い, 延べ103人が出席しました。9人の新入会員がありました。

8月の研究会には, 追手門学院大学経済学部准教授加藤靖弘先生に「CLOUT判例におけるイン

コタームズについて」と題した講義をして頂きました。

商学研究会

1. 代表幹事名：小田 福男（商学科・教授）

2. 目的・内容：

商学科所属教員全員がメンバー。商学科教員および学外の研究者による研究発表ならびに意見交換等を行います。各教員の研究内容について、これを専門分野にとらわれることなく、多角的な視点から議論することが特徴です。

3. 平成22年度活動実績：

5月11日（火） 13:00-14:30	加藤 敬太（小樽商科大学）：企業の長期存続と経営戦略—老舗企業のフィールド調査から— 石川 業（小樽商科大学）：なぜB/S上の株主資本は単なる差額（=資産-負債）ではないのか？
10月 1日（金） 17:00-18:30	江夏 健一（早稲田大学名誉教授）：グローバル化と企業経営（地域研究会との共催）
12月17日（金） 17:00-18:30	Dr. Chew Yin Teng（モナシユ大学，マレーシア）：The Effects of Supervisory Support and Perceived Organizational Support on Training Motivation and Employee Work Attitudes.（地域研究会との共催）

進化経済学ワークショップ

1. 代表幹事名：江頭 進（経済学科・教授）

2. 目的・内容：

社会・経済の進化構造を分析し、稼働可能なモデルの作成と実在論に基づいた事象の記述を行います。また、その研究者間の交流を促進します。

3. 平成22年度活動実績：

9月19日（日）	進化経済学ワークショップ開催（於：京都大学）
----------	------------------------

4. 平成22年度研究成果（刊行物、HPなど）：

西部 忠・吉田 雅明監修『進化経済学 基礎』，日本経済評論社，2010年。

地域環境問題研究会

1. 代表幹事名：八木 宏樹（一般教育等・教授），事務局：山本 充（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

地域社会が抱える環境問題を自然科学・社会科学の両面から分析し、その解決に向けた処方箋や情報を提供することを目的とします。

地域研究会

1. 代表幹事名：穴沢 眞（商学科・教授）

2. 目的・内容：

『グローバリズムと地域経済』というテーマのもと、これに関連する様々な研究を推進します。特に、北海道経済の活性化に資する研究に重点を置きます。

メンバー及び他の教員の研究に対して広範な助成を行い、地域連携のための業務も遂行します。

3. 平成 22 年度活動実績：

公開研究会 2 回

学外研究会 1 回

北海道庁との勉強会 12 回

学内研究会 10 回

研究プロジェクト助成 6 件

公開研究会

8月 7日（土） 10:00-17:00	小樽商科大学地域研究会進化経済学会合同フォーラム 「グローバリズムと地域経済 2010」 （於：小樽商科大学札幌サテライト中講義室） テーマ 1 地方財政 佐野 博之（小樽商科大学商学部）：“Evolutionary equilibria in capital tax competition with imitative learning” 石田 三成（小樽商科大学地域研究会）：“地方交付税と地方税の徴収率—行革インセンティブ算定の効果” テーマ 2 観光資源と産業 井出 明（首都大学東京 都市環境科学研究科）：“比較 “の視点で考えるこれから北海道観光” 渡久地朝央（小樽商科大学地域研究会）：“準都市計画区域における外部経済評価に関する研究” テーマ 3 地域産業の再生 塩沢 由典（中央大学商学部）：“地域経済の発展原理と飽和経済” 宮本 光晴（専修大学経済学部）：“工業都市の再生と進化：川崎の事例から” テーマ 4 地域金融と通貨 西部 忠（北海道大学大学院経済学研究科）：“地産地消と地域通貨—北海道通貨の構想” 神崎 稔章（小樽商科大学地域研究会）：“北海道の貯蓄投資バランスと金融機関の資金移動”
-------------------------	---

<p>12月10日（金） 11:00-16:30</p>	<p>プレ国際シンポジウム「グローバリズムと地域経済」（於：小樽商科大学札幌サテライト大講義室）</p> <p>“FTA Issues and Hokkaido’s Agriculture Coping with Globalization” Professor HONMA, Masayoshi, Tokyo University</p> <p>“Globalism and Hokkaido Economy” Professor ANAZAWA, Makoto, Otaru University of Commerce</p> <p>“Place-based Regional Development Policy - opportunities and limits?” Professor DABINETT Gordon, University of Sheffield</p> <p>“The Dilemma of Regional Economic Policy” Professor MAIER, Gunther, Vienna University of Business and Economics</p> <p>“Economic Development Efforts in Michigan: Lessons for Hokkaido?” Professor MOSER, Christine, Western Michigan University</p> <p>“Export-led Recovery: Value through Branding” Professor GNOTH, Juergen, University of Otago</p> <p>“Responses of Regional Economies to Globalisation - the experience of Chungnam Province, Korea” Professor PARK, Jin Do, Chungnam National University</p>
----------------------------------	---

学外研究会

<p>2月14日（月） 15:00-17:00</p>	<p>本保 芳明先生講演会「これからの観光戦略と北海道」（首都大学東京都市環境科学研究科観光科学域教授，前観光庁長官）</p>
---------------------------------	---

地域研究会と北海道庁との勉強会（於：北海道庁内会議室）

<p>7月23日（金） 16:00-17:30</p>	<p>穴沢 眞；プラート・カロラス（小樽商科大学）：マーケティング論等を踏まえた国際観光戦略についての検討（分科会：観光）</p>
<p>7月30日（金） 16:00-17:30</p>	<p>江頭 進；加賀田和弘（小樽商科大学）：これまでの研究報告（分科会：環境）</p>
<p>10月22日（金） 16:00-17:30</p>	<p>江頭 進；加賀田和弘（小樽商科大学）：北海道で可能な環境ビジネス・モデルを考える（分科会：環境） 穴沢 眞；プラート・カロラス（小樽商科大学）：国際観光施策の立案（分科会：観光）</p>
<p>12月 3日（金） 16:00-17:30</p>	<p>江頭 進；加賀田和弘（小樽商科大学）：環境市場を育成するために道庁ができることを考える（分科会：環境） 穴沢 眞；プラート・カロラス（小樽商科大学）：新たな国際観光施策の提言（分科会：観光）</p>
<p>2月 8日（火） 16:00-17:30</p>	<p>石田 三成；渡久地朝央（小樽商科大学）：分析手法概説（分科会：農商工連携） 近藤 公彦；大津 晶（小樽商科大学）：小売商業振興に向けた本道商業の特性の把握 「問題提起」（分科会：商業・まちづくり）</p>
<p>3月16日（水） 16:00-17:30</p>	<p>石田 三成；渡久地朝央（小樽商科大学）：先行研究レビュー（分科会：農商工連携） 近藤 公彦；大津 晶（小樽商科大学）：小売商業振興に向けた本道商業の特性の把握 「分析提案と批評」（分科会：商業・まちづくり）</p>

3月24日(木) 16:00-17:30	石田 三成; 渡久地朝央(小樽商科大学): プレゼンテーション(分科会: 農商工連携) 近藤 公彦; 大津 晶(小樽商科大学): 「データで見る本道商業の姿」の発表(分科会: 商業・まちづくり)
-------------------------	--

学内研究会

4月16日(金) 16:00-18:00	趙 来勲(神戸大学経済経営研究所教授): Tainted Food, Low-Quality Products and Trade(グローバル経済部門(理論)研究会)
5月28日(金) 16:00-18:00	小林 航(千葉商科大学政策情報学部准教授): 共有財源問題と国直轄事業負担金(地域研究部門・財政研究会)
6月11日(金) 16:00-18:00	劉 新宇(北京金杜法律事務所 パートナー弁護士): 中国のビジネスに関する最新事情, 関連する中国法の基礎知識を概説したうえ, 中国ビジネスをめぐる法的リスクの回避・解決策について論じる。(地域研究部門・法制度研究会)
6月30日(水) 15:30-17:30	遠山 純弘(小樽商科大学 企業法学科 准教授): 【判例評釈】譲渡禁止の特約に違反して債権を譲渡した債権者が譲渡の無効を主張することの可否 最判平成21年3月27日民集63巻3号449頁(地域研究部門・法制度研究会)
7月2日(金) 16:00-18:00	赤井 伸郎(大阪大学大学院国際公共政策研究科准教授): • Endogenous Choice on Tax Instruments in a Tax Competition Model: Unit Tax versus Ad Valorem Tax • A simple dynamic decentralized leadership model with local borrowing regulation and free mobility(地域研究部門・財政研究会)
7月23日(金) 16:00-18:00	吉田あつし(筑波大学社会工学系教授): How Do Japanese Health Insurance Societies Finance Their Contributions to the Health Service Systems for the Elderly?(地域研究部門・財政研究会)
10月1日(金) 16:00-18:00	小西 秀樹(早稲田大学政治経済学術院教授): Decentralization in Government: Career Concerns and Yardstick Competition(グローバル経済部門(理論)研究会)
10月1日(金) 17:00-19:00	江夏 健一(早稲田大学名誉教授): グローバリゼーションと企業経営(グローバル経済部門(実証)研究会)
11月28日(金) 16:00-18:00	梅島 修(ホワイト&ケース外国法事弁護士事務所パートナー): 最近の対中貿易救済措置(グローバル経済部門(理論)研究会)
12月17日(金) 16:00-18:00	Dr. Chew Yin Teng(モナシユ大学, マレーシア): The Effects of Supervisory Support and Perceived Organizational Support On Training Motivation and Employee Work Attitude(グローバル経済部門(実証)研究会)

平成22年度小樽商科大学地域研究会研究プロジェクト助成

申請者(所属・職名)	研究テーマ	研究協力者数	備考
籾本 智之 (アントレ専攻・教授)	韓国企業のグローバル戦略に関するケースリサーチ	本学5名 教授4名) (事務補佐員1名)	地域研究会 メンバー2名 (李 濟民, 近藤 公彦)
江頭 進 (経済学科・教授)	北海道における環境およびCSRのアンケート調査	本学2名 (教授1名) (准教授1名)	地域研究会 メンバー2名 (江頭 進, 加賀田和弘)
柴山 千里 (経済学科・教授)	EUのアンチダンピング措置の最新動向	本学2名 (教授1名) (准教授1名)	地域研究会 メンバー2名 (柴山 千里, 小林 友彦)

多木誠一郎 (企業法学科・教授)	韓国農業協同組合法による制度設計について	本学 1 名 (教授 1 名)	
小島 直樹 (経済学科・准教授)	mechanism design と agent の排除, 其の地域研究への応用	本学 1 名 (准教授 1 名)	
伊藤 一 (商学科・教授)	現代医療経営の課題	本学 4 名 (教授 3 名) (准教授 1 名)	地域研究会 メンバー 2 名 (李 濟 民, 乙政 佐吉)

4. 平成 22 年度研究成果 (刊行物, HP など) :

プレ国際シンポジウム報告書 (Globalism and Regional Economies)

HP については大学の HP からアクセス可能。地域研究会の活動や構成員の研究業績等も掲載。

地方政治システム研究会

1. 代表幹事名 : 相内 俊一 (院アントレプレナーシップ専攻・教授)

2. 目的・内容 :

地方政府のマネジメントを, 財政バランス・政策選択の優先順位・住民満足度・発展戦略などの観点から研究します。

地方政府レベルにおける多文化主義的地域政策研究会

1. 代表幹事名 : 相内 俊一 (院アントレプレナーシップ専攻・教授)

2. 目的・内容 :

北海道の市町村における多文化主義的地域政策推進のための諸条件, 政策領域の可能性などについて, 比較文化的観点から研究し, 地方政府の政策形成に寄与することを目的とします。

法制研究会

1. 代表幹事名 : 才原 慶道 (企業法学科准教授) / 林 誠司 (企業法学科准教授)

2. 目的・内容 :

本学商学部企業法学科所属の教員及び大学院商学研究科現代商学専攻企業法学コース所属の大学院生による研究発表の場です。「広く法律学一般に関する学術の進歩を図るため, これに必要な調査研究発表を行うとともに, 教官相互の研鑽と大学院教育の向上に寄与すること」を目的とします。そのため, 大学院科目「法学総合研究A」及び「法学総合研究B」と

して、大学院生への教育の場にもなっています。

3. 平成22年度活動実績：

5月12日（水）	第1回（通算118回）南 健悟（小樽商科大学准教授）／取締役の法令遵守体制構築義務について
6月30日（水）	第2回（通算119回）遠山 純弘（小樽商科大学准教授）／【判例評釈】譲渡禁止の特約に違反して債権を譲渡した債権者が譲渡の無効を主張することの可否 最判平成21年3月27日民集63巻3号449頁
8月4日（水）	修士論文中間報告会
10月20日（水）	第3回（通算120回）小島 陽介（小樽商科大学准教授）／教唆行為における正犯の所為の特定性
11月24日（水）	修士論文中間報告会
10月28日（水）	第4回（通算121回）小倉 一志（小樽商科大学准教授）／選挙運動のIT化と憲法・公選法
1月26日（水）	第5回（通算122回）林 誠司（小樽商科大学准教授）ドイツ損害賠償法改正と監督者責任
2月16日（水）	第6回（通算123回）井戸 希（小樽商科大学大学院博士前期課程）／情報公開・個人情報保護制度と医療情報

4. 平成22年度研究成果（刊行物、HPなど）：

同年度に開催された上記研究会の報告題目が、

<http://www.otaru-uc.ac.jp/dept/law/housei/housei10.html> で公開されています。

北東アジア・サハラ研究研究会

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

経済活性化が望まれている北海道と大規模石油・ガス開発プロジェクトを実現しつつあるサハラとの関係を中心軸にとり、それを取り囲む北東アジア地域の様々な問題群を検討します。

北海道ヘルスケア・マネジメント研究研究会

1. 代表幹事名：李 濟民（院アントレプレナーシップ専攻・教授）

2. 目的・内容：

医療機関等における経営活動に関する研究

3. 平成22年度活動実績：

以下に示す研究会を2回開催し、外部講師から病院経営での業務改善活動の事例を紹介してもらいました。これら研究会から得られた知見を研究活動に関連させ4に示す業績につな

りました。

12月18日（土） 14:30-16:00	第1回 櫛引 久丸（小樽済生会病院事務長）：病院におけるBSC経営について
1月22日（土） 14:30-	第2回 近藤 隆史（長崎大学）；乙政 佐吉（小樽商科大学）：医療における管理会計研究の現状と課題

4. 平成22年度研究成果（刊行物，HPなど）：

李 濟民（2011）「北東アジアにおける韓国と日本の役割」『北海道の自立戦略を考える』中西出版，pp. 224-239

李 濟民（2011）「平成 22 年度小樽市がん検診・特定健康診査に関する実態調査報告書」，小樽市保健所

マーケティング研究会

1. 代表幹事名：プラート・カロラス（商学科・教授）

2. 目的・内容：

本研究会の目的はマーケティング分野における最新研究に関する情報交換及び研究者交流の場を設けることです。本研究会におきましては，マーケティング関連の学内及び学外研究者による最新研究の報告，議論を行います。